

製品名: TrkA (14C16) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe19289**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:100,IF-P 1:50-1:100
分子量	87kDa

抗原情報

遺伝子名	NTRK1
別名	NTRK1; MTC; TRK; TRK1; TRKA; Trk-A; p140-TrkA;
遺伝子 ID	4914.0
SwissProt ID	P04629
免疫原	ヒト TrkA の合成ペプチド

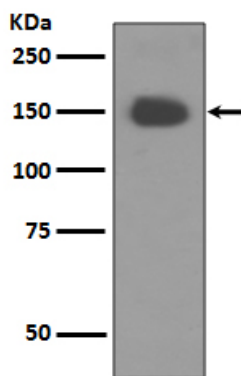
背景

Trk 受容体チロシンキナーゼファミリーは、TrkA、TrkB、TrkC から構成されます。これらのファミリーメンバーの配列は高度に保存されていますが、それぞれ異なる神経栄養因子によって活性化されます。TrkA は NGF、TrkB は BDNF または NT4、TrkC は NT3 によって活性化されます。これらの受容体を介した神経栄養因子シグナル伝達は、細胞の生存、増殖、神経発達、軸索および樹状突起の成長とパターン形成など、多くの生理学的プロセスを制御します。受容体チロシンキナーゼは、交感神経ニューロンおよび神経ニューロンの増殖、分化、および生存の制御を通じて、中枢神経系および末梢神経系の発達と成熟に関与しています。主要リガンドである NGF に対する高親和性受容体 (PubMed:1850821, PubMed:1849459, PubMed:1281417, PubMed:8325889, PubMed:15488758, PubMed:22649032, PubMed:17196528, PubMed:27445338)。NTF3/神経栄養因子 3 にも結合し、活性化される。しかし、NTF3 は NTRK1 を介して軸索伸展を促進するのみで、ニューロンの生存には影響を与えない (相同性による)。二量体は NGF リガンドに結合すると、ホモ二量体化、自己リン酸化、活性化を受ける (PubMed:1281417)。SHC1、FRS2、SH2B1、SH2B2、PLCG1 など、細胞の生存と分化を促進する重複するシグナル伝達カスケードを制御する下流エフェクターをリクルート、リン酸化、および/または活性化します。SHC1 と FRS2 を介して、細胞の分化と生存を制御する GRB2-Ras-MAPK カスケードを活性化します。PLCG1 を介して、NF- κ B の活性化と細胞生存に関与する遺伝子の転写を制御します。SHC1 と SH2B1 を介して、同じく生存を制御する Ras-PI3 キナーゼ-AKT1 シグナル伝達カスケードを制御します。リガンドと活性化がない場合、細胞死が促進され、ニューロンの生存が栄養因子に依存する可能性があります。

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;エンドサイトーシス;アポトーシス阻害;ミトコンドリアのアポトーシス;アポトーシスの概要;神経栄養因子;がんにおける経路;甲状腺がん;

画像データ



ヒト胎児脳組織溶解物における TrkA 発現のウェスタンブロット分析。